

産大生と地域のかけ橋

ローカレッジ

Local × College



「柏崎野菜応援プロジェクト」 マコモタケ NEWS

比角小学校で活動報告 / LINE スタンプ発売



たかだ 竹あかり

猛暑の中の竹伐採・竹加工
浴衣美人がお出迎え！

まちかど研究室 えんま市・ぎおん祭り・まち研カフェ 地ラボニイガタ 「水球のまち柏崎」NEWS

この冊子は新潟産業大学経済学部学生が制作しました



県内の私立大学で
取得できるのは
新潟産業大学だけ

博物館学芸員資格を
取得するならここ！

柏崎市立博物館で博物館実習



▲8月3日～10日にかけて、他大学の学生等を含め、計7名で博物館実習を行いました。お客様について、研究について、伝えることについてなど、とても学ぶことが多い一週間でした。

▼実習3日目
寄付していただいた民具の整理をしました。



▼実習6日目
丘江遺跡で発掘作業をしました。



▲実習7日目
古文書整理をしました。



►柏崎市立博物館は、2018年3月24日にリニューアルオープンをしました。
柏崎の魅力を再認識したと共に、リニューアルに関わったスタッフの方々のこだわりや地元愛を感じることができました。

文・デザイン：金子佐和子

産大生と地域のかけ橋
ローカレッジ Vol.8
2018年10月20日発行

編集・発行責任者
新潟産業大学 経済学部講師
権田 恭子

※この冊子に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。
今後の参考にさせていただきます。

〒945-1393 柏崎市軽井川4730番地
新潟産業大学 地域連携センター
TEL: 0257-24-8441
FAX: 0257-22-1300

新潟産業大学の学生による大学×地域連携活動を紹介し、地域の活性化について考える広報誌『ローカレッジ』の制作も、今年度で4年目を迎えることができました。本号の編集においては、1年生の頃から4年間継続して本誌に関わってくれた学生も数名参加しています。彼らをはじめ多くの学生が、学生時代の限られた時間において、地域と関わることに多くの心と時間を割いてくれたことを、大変喜ばしく感じています。

今年度のトレンドはやはり「PR動画制作」でしょう。春に刈羽村と柏崎リーダー塾から同時に2件の動画制作のお話をいただき、全くの未経験でしたが、学生たちのアイデアやセンス、そして行動力をフル稼働して、地域の方に喜んでいただける作品になるよう日々進行中です。

新潟産業大学では「地域実践教育大学」を目指して、今後、益々地域の方々とのつながりを大切にしながら教育・研究活動を進めていく所存です。地域の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻いただけますよう、よろしくお願ひいたします。

編集スタッフ：文化経済学科4年 権田ゼミナール
神田 夏海 小林 樹 駒村 彩佳 進藤 真彩 高野 和也 渡邊 有紀
文化経済学科3年 権田ゼミナール
五十嵐 混貴 小川 琴音 笠原 如乃 金子 佐和子 高橋 堅登 宮田 春良
経済経営学科4年 本田 渉
文化経済学科2年 湯本 夏音

刈羽村の名産品である桃やお米・卵などの農産物を中心に動画を制作しました。また、刈羽村出身または刈羽村で働いているイケメンな男性を探し、この動画にご協力していただきました。この動画を見て、これと同じものが食べたい・食べに行きたいと思わせる内容のものになったと思います。

最初に撮影したのは刈羽村正明寺の桃畠です。朝5時むづかしい、地元の方に手伝っていただきながら桃の収穫の動画を撮影し、その後、動画協力いただいた刈羽村の男性の方とメインの動画撮影に入りました。学生も初めての動画撮影で戸惑いながらも、撮影前日までSNSを



究極の選択
彼女はどれを選ぶ?

桃と農産物



通して松井さんたちにメイン男性の登場場面の細かい表情の作り方・よりよい台詞のチョイスなどをご指導いただいたおかげで初心者ながらもよりよい動画を撮れました。他のシーンでは、とうりんばにあるレストラン「至福の時間」や刈羽村の田んぼでの撮影を行い、刈羽の食の魅力がたくさんつまった動画になっています。

あらすじ: あるひとりの女の子が刈羽村を訪れる。刈羽村の名産品である桃や農産物などを食べながら刈羽村を少しずつ知っていく。そのなかで行く先々で出会う刈羽村のイケメンでステキな男性たち。衝撃のラストで究極の選択を迫られる女の子…。その選択とは…!!



スポーツ・文化

青春ラブストーリー。
目指すは

刈羽村を舞台として花火、文化祭などのイベントを積極的に使うよう脚本を練りました。刈羽村はどうりんばうという大きなサッカー場があり、これはPRになると考え、動画を作成しました。ドローンでの撮影も行い、躍動感のある映像作成しました。花火の撮影では雨が降ってきても撮影することが出来ました。花火の撮影では雨が降ってきたり、それぞれの部活が忙しい中での撮影で集まれる学生がたり、他の班のメンバーにも協力をしてもらい無事に花火のシーンの撮影を終えることが出来ました。イベントでの撮影なので、本番がその日にしか撮れないプレッシャーがありました。その日までに撮影するシーンの準備を進め、ま

みちさんや歌織さんのご指導のもと細かくシーンを撮影しました。多くの方々の協力があり、撮影を進められていることに感謝し、これから撮影にも励んでいきたいです。

あらすじ: 刈羽村の女の子は本を探しにラピカに行くと、謎の男の子に会う。その二人は刈羽村ふるさとまつりへ行き花火を見たり、サッカーを楽しんだり、心の距離を縮めお互いを意識し始める。しかし、突然男の子は一通の手紙を残す。手紙に書かれた謎の男の子の真女の前から姿を消す…。手紙に書かれた謎の男の子の真女の跡が起きる…!!



特集！大学生によるPR動画制作中…

その1 刈羽村 PR 動画

「歴史・エネルギー」「スポーツ・文化」「桃・農産物」

刈羽村の魅力を紹介すべく、最も特徴あるこれらの3つをテーマに、一本ずつ動画を制作しています。各テーマごとに村内のイベントや公共施設、食べ物などを活かしたストーリーをいちから学生が考え、プロのアーティストである松井まさみちさんと歌織さんからアドバイスを受けながら、学生が絵コンテ（動画全体の流れをイラストで書いたもの）を作っています。動画の完成は年度末を予定しています。この記事では、各班の撮影の様子やあらすじをご紹介します。

この事業は、新潟産業大学の学生が刈羽村から委託された「刈羽村の観光PR事業」です。この事業の目的はPR動画制作を中心とした広告ではなく、短編ストーリー立ての創造的な動画にすることで、多くの人が観て「刈羽村はこんなに魅力がある村なんだ！」と思うような動画を目指して、新潟産業大学の学生が制作しています。



松井まさみちさん

新潟産業大学卒業生。NHK オンエアバトル優勝、日本一に輝きメジャーデビュー。NHK みんなのうた「しあわせだいふく」歌唱。ブルボン KZ 応援ソング、産大イメージソング「N.S.U」を制作。舞台主題歌や TVCM 曲も手掛け幅広く活躍中。



歴史・エネルギー



刈羽村の歴史や建造物をまず知るために、刈羽村教育委員会の芸員である田中亨さんに村内をまわりながら寺院などを中心に説明していただきました。実際に寺院などを見て、刈羽村の歴史を聞くことで、作成者側も知らなかつたことが多くあり、動画を作つていざながら動画を作成することでも刈羽村を知らない方にもわかりやすくお届けできると思います。

あらすじ: 刈羽村に縁のある偉人が村内のお寺や紅葉の名所など、さまざまな場所をを巡るストーリー。現段階では、上杉氏の家臣である斎藤下野守朝信（さいとうしもつけのかみどものぶ）や朝信に仕えた長谷川与五左衛門基連（はせがわよござえもんもとつら）が登場する予定。

刈羽村の歴史や建造物をまず知るために、刈羽村教育委員会の芸員である田中亨さんに村内をまわりながら寺院などを中心に説明していただきました。実際に寺院などを見て、刈羽村の歴史を聞くことで、作成者側も知らなかつたことが多くあり、動画を作つていざながら動画を作成することでも刈羽村を知らない方にもわかりやすくお届けできると思います。

あらすじ: 刈羽村に縁のある偉人が村内のお寺や紅葉の名所など、さまざまなお寺や紅葉の名所など、刈羽村を知らない方にもわかりやすくお届けできると思います。



比角小学校にて マコモタケに関する活動紹介



マコモタケの植え付け体験から約1ヶ月後の7月上旬、権田ゼミナールのゼミ生5名が柏崎市立比角小学校の授業に招かれ、ゼミ内でのマコモタケのPRに関わる取り組みについての紹介を行ってきました。比角小学校では毎年5年生で地元食材であるマコモタケについて学習しますが、その一環として、大学生によるこれまでの活動についての話を聴きたいとのことでした。普段からまちかど研究室のカフエなどで小学生と会話ををする機会はあります、ここまで大勢の前で話をすることはあまりないため、新鮮な気持ちでプレゼンに臨みました。



▲各班ごとに話し合い、改めて案を出します

最後に今回の授業で大学生から聞いた話などを参考にして、もう一度話し合いを行いました。話し合いには大学生も参加し、今まで以上によりよいPR方法はないかと思考を巡らせました。話し合いで新たに複数の案が出され、その中から最終的にマコモタケを知らない小さな子ども向けに「マコモタケのキャラクターのぬり絵をつくつて配る」という案が採用されることになりました。産大の学生がデザインしたキャラクター（カシワタケさんとマコモザキくん）のぬり絵は、後日市内の保育園や幼稚園の子どもたちに届けられる予定です。私たち大学生の活動が小学生の学びとともに届けられます。私たち大学生の活動が高齢者や小さな子どもなどにマコモタケを知らなかった人にとって高齢者や小さな子どもなどにマコモタケを知らない人が多いとのことで、私たち大学生にとつても新しい発見がありました。



マコモタケモチーフキャラクターの LINEスタンプ発売!!

『柏崎野菜応援プロジェクト』の新しい取り組みとして、マコモタケをモチーフにしたキャラクターたちのLINEスタンプが発売されることになりました！2018年10月中にリリース予定、50コインまたは120円で購入できます。



マコモタケの植え付け体験から約1ヶ月後の7月上旬、権田ゼミナールのゼミ生5名が柏崎市立比角小学校の授業に招かれ、ゼミ内でのマコモタケのPRに関わる取り組みについての紹介を行ってきました。比角小学校では毎年5年生で地元食材であるマコモタケについて学習しますが、その一環として、大学生によるこれまでの活動についての話を聴きたいとのことでした。普段からまちかど研究室のカフエなどで小学生と会話をする機会はあります、ここまで大勢の前で話をすることはあまりないため、新鮮な気持ちでプレゼンに臨みました。

3年目突入！ 柏崎野菜 応援プロジェクト

今年5月下旬、昨年に引き続き柏崎の矢田営農さんにマコモタケの植え付け体験が行われました。体験には比角小学校5年生の皆さんと権田ゼミナールの学生が参加。マコモタケはイネ科の植物のため、お米のように水田に植え付けを行います。慣れない泥の感触に苦戦しながらも、参加者全員で協力してなんとか植え付けを完了することが出来ました。

春に植えたマコモダケは根元に黒穂菌（くろぼきん）と呼ばれる菌が付くことで肥大化し、秋頃に収穫となります。今後の収穫が楽しみですね！



◀◀昨年度の収穫の様子

矢田営農組合さんにて 植え付け体験

マコモタケ NEWS!



▲移動するだけでも一苦労です



▼比角小学校の皆さんと

マコモタケのパッケージに オリジナルキャラクターたちが登場



お店で見つけてね !!
(*^▽^*)



この秋、矢田営農組合さんから出荷される柏崎産マコモタケのパッケージに、産大の学生がデザインしました。ぜひ探してみてくださいね！

9月末頃から出荷予定、市内スーパー・マーケットや直売所に並びます。ぜひ探してみてくださいね！

地ラボ＝イガタ

「地域を元氣にする、大学生の挑戦」

地ラボニイガタとは?

研究・調査することになりました。



▲どんでん山荘から見える佐渡の景観

「地域×学生のコラボレーション」の略で、2017年度よりスタートした新潟日報社のキャンペーン企画です。大学生が新潟県の人口減少、少子高齢化を大学生の知の資源を生かして解決する姿を新潟日報の紙面で紹介しようという企画です。昨年は県内各大学のプロジェクトを紙面にて県内に広く紹介してきました。今年度は実際に課題解決を試みるべく、県内の大学から7名の研究員が選ばれ、新潟産業大学の代表として五十嵐滉貴が選任されました。今年度は佐渡に目を向け、佐渡の地域活性化には何が必要なのかなどを

9月14日～16日の3日間実際に佐渡の島民の方や旅館、観光施設などで取材や体験を行い、資料だけではわからないことを調査してきました



後列左が産大の五十嵐



裂き織り工房の加藤智津栄さん

智津栄さんは「裂き織りが一つの職業として成り立つてほしい。そうなれば職を求めて佐渡に来る人が増えるのでは。」と佐渡の現状と今後について語つてくださいました。静海荘の女将さんも「佐渡には働き口が無いから若者が島外へ出て行つてしまふ。」と話してくださいました。話を聞いたとき、人口を増やすために働き口が増えれば人口も増えると思いましたが、その反面、商業施設などが建つたらきれいな景観が損なわれるのではないかとも思いました。また、取材をしたほとんどの方が仰つてのことがあります。それは「佐渡の人は本土の人よりも温かい」「本土に比べ時の流れが遅く感じゆつ

佐渡研修を終えて

佐渡研修を終え、佐渡の人たちは佐渡の事を愛しているのだと身をもって感じました。佐渡の事を愛しているからこそ、佐渡に来ててくれた人に温かく、手厚くもてなしでいるのだとと思いました。地ラボはこれで終わりではなく、今後は新潟日報みらい大学講演会で、研修の内容発表や課題解決に向けて提言できるように、議論を進めてい



文・デザイン：五十嵐 混貴

祝!! 日本選手権制覇!! 6年ぶり2度目

祝!! 日本選手権制覇!! 6年ぶり2度目

白熱！K-1アーティスト開催

ゲ」が6月5日・7月3日・7月29日・8月8日の4日間に渡り開催されました。このリーグ戦は、ブルボンウォーターポロクラブ柏崎に所属するリオオリンピック日本代表選手を含む社会人選手と、大学生選手が4つのチームに分かれ開催日ごとに試合を行うというものです。

了後には様々な景品の当たる抽選会やジャンケン大会も開かれました。



8月8日は水球の日！

卷之三

8月8日、この日、柏崎アシアパークで「水球の日」イベントが開催されました。イベントには約450名の地域の方が参加され、水球にまつわるはんこ鑑賞をしました。イベントの運営には地域の方々の協力がありました。

以外にも、高齢者、障害者、大学生、社会人も協力して、地域の方々と交流をもつています。

実況をしてくださいました。水球の経験者ということもあり、わかりやすい実況のおかげで会場はとても盛り上が

昨年からの開催で、今年で2回目の開催でしたが、今後もこのような水球の試合を間近で観戦したり、水球を体験したりできるイベントなどが開催されることに期待したいです。



文：高橋 堅登・宮田 春良 写真提供：水球のまち推進室

たかだ竹あかり

竹伐採

8月25日（土）26日（日）に、今年も柏崎市史跡「飯塚邸」にて「たかだ竹あかり」が開催されました。例年とは違い、ひと月早く開催されたこのイベント、天候も心配されたが無事に晴れ、好評のうちに終えることができました。



たかだ竹あかり イベント

「たかだ竹あかり」のイベントは、地域住民の高齢化によって荒れた竹林をどのように整備するかの話し合いの中で、伐採した竹を利用してイベントをしようという提案から実現したものです。会場は、地域の宝である飯塚邸を利用し、高田コミュニティセンターと飯塚邸の2会場でイベントを開催しました。

時期はこれまで十五夜や二十三夜待ちなど月にまつわる行事を意識して、9月に行っていましたが、今回は夏祭りを行ってきましたが、今回も夏祭りをテーマに、8月に開催することになりました。

9月のイベント開催では、天候の不安があるため、一ヶ月はやい開催となりましたが、そのため準備も例年より早く取りかかることとなりました。



竹加工

伐採の次は、切った竹の加工になります。加工の作業日も2回あり、竹に色を塗る作業をしました。今回高田コミュニティセンター会場では花火をイメージした竹を配置するために、色を塗ることによって花火を再現しました。そのおかげでペンキの渴くのが早く作業も効率よく進みその日に塗装が全て終わりました。

予備日として設けていた日には、飯塚邸に設置する竹の組み立てに入ることができ、伐採から加工まで全ての作業を無事終わることができました。この作業にはトータルで11名の学生が参加しました。



美しい音色に 耳を傾けながら

たかだ竹あかりのメインといえば勿論竹灯籠の灯りですが、それだけではありません。毎年、イベントに際して広間では音楽の演奏も行っています。今年度の演奏は、キーボードとクラシックギターでした。広間で座って聴くもよし、外に出て竹灯籠を見ながら音楽に耳を傾けるも良しと楽しみ方は様々です。私も、外で庭園内の巡回を行いながら美しい音色に耳を傾けていました。その音色は竹灯籠の暖かい光と絶妙にマッチし、とても幻想的な空気が漂っていました。

暖かな光に包まれて

たかだ竹あかりの醍醐味といえばやはり、飯塚邸全体に配置された竹灯籠の灯りを楽しむことでしょう。普段から日本庭園らしく素晴らしい風景なのですが、たかだ竹あかりの2日間はより美しく風情ある情景が目に映ります。飯塚邸全体に配置された竹灯籠の灯りは、暖かなオレンジ色でとても落ち着きますね。

私はお茶室付近で日の晩や通路の誘導を行っていましたが、飯塚邸の美しい景色を見ているととても落ち着くようなほっこりした気持ちになりました。普段見ることのできない風景を見ることができたためか、お客様方も興奮を隠し切れないので、写真を撮る人やゆっくり時間をかけて順路を歩く人など、過ごし方は様々でした。



権田ゼミが誇る浴衣美人たち！

バックの竹灯籠の美しさも相まってきれいですね。

たかだ竹あかりを通して
今年度はどのような趣向が凝らされるのか楽しみです。



たかだ竹あかりを通じて

今回の竹あかりは例年よりもひと月早い開催で、暑さもまだきびしい中でのイベントでした。また、天候も不安定で心配していましたが、晴れてくれたのでイベントを無事終わせることができました。

私は4年間たかだ竹あかりのボランティアスタッフとして活動してきましたが、今回の竹あかりが最後かと思うと少し寂しい気もします。毎年少しづつ改善されたところや、逆にもつと工夫した方がよかつたのではと思うことがありました。今年の竹あかりは4年間間携わってきた中で一番よかつたのではないかと思います。



「海辺のキツチン倶楽部 もく」

築110年の蔵で味わう
笠島の伝統料理を



笠島海岸から一本路地を入つたところにある隠れ家的なお食事処「海辺のキツチン倶楽部 もく」。最近ではメディアで紹介されることも多く、この日もテレビ局のカメラが入り、取材を受けながらのランチ体験でした。

かつては夏には大変賑わっていた笠島海岸も、今では浜茶屋が1軒だけ。地域の方が気軽に集まれるお店がほしいと考えた黒崎朝子さんは、築110年の歴史を持つ蔵を改造し、市の補助金制度なども活用しながら、地域の方々を云流料理を提供できる小さ

お店をオープンしました。高級品とされる笠島もずく汁や味付けえごとといった海藻を中心とした特製ランチは、若い学生にはあまり馴染みのないメニューでしたが、素材を活かしたやさしい味付けで、留学生も大変美味しくいただきました。カフェメニューもあり、気の置けない仲間とゆつたりした時間を過ごすのにもおすすめです！

＜お問い合わせ＞
柏崎市笠島 810-1 JR 笠島駅徒歩 1 分
TEL : 0257-31-1023
営業時間：金・土・日 10:00 ~ 16:00
<https://kurosakih.exblog.jp/>



文化経済学
2年 楊本夏音



ら5年間柏崎に通っているにも関わらず、柏崎についてほとんど知りませんでした。そのため授業を通して、外の人間が出身地以外についてることはその土地に寄り添う気持ちが生まれ、そこで育つた人間とは違った目線からの発想を促すことに繋がるのではないかと考えました。

これをきっかけに柏崎に寄り添った活動を更に盛り上げて

いたならなと思います。



文化経済学科 専門科目（まちづくり・地方行政分野）

「まちづくり基礎」で フィールドワークに出かけよう

新潟産業大学経済学部には、全国でも珍しい「文化経済学科」が設置されています。文化的な産業・ビジネス、社会の背景にある文化的価値について理解を深め、経済学的なアプローチを通じて、地域活性化の担い手となる人材を育成しています。文化経済学科で学べる4分野のひとつ、「まちづくり・地方行政分野」では、入門的科目である「まちづくり基礎」で、フィールドワークを積極的に取り入れ、まちづくりについて実践的に学んでいます。

の記事で紹介したフィールドワークは新潟県「平成30年度 新潟の産業・企業を知る講座」の事業委託を受けて実施しました。

日頃まちづくり関係の学習や活動では、柏崎の実情も反映して、「かつては賑わっていた地域に活気を取り戻す」といった問題意識からスタートすることが多いのですが、今回訪れた「フルサット」は北陸新幹線開通に伴い新設された上越妙高駅西口に位置する「フルサトー」の魅力を凝縮した商業



をとり、老舗お茶店のプリンなどお土産も購入し大満足でした。新たな賑わい創出に挑戦する取り組みに県外や首都圏からの視察も多いそうです。新幹線開通が地域活性化のチャンスとなるか、今後のススメ。

お問い合わせ>
式会社北信越地域資源研究所
越市大和 5-26-1
TEL : 025-520-8777 (9:00 ~ 18:00)
AX : 025-520-8779
各店舗の営業時間等は web サイトを参照
<http://furusatto.com/>

